



「沢入国際サーカス学校」

(みどり市)が十一日、反原発を大道芸で訴える全国行脚を栃木県日光市足尾町の旧足尾公民館前でスタートさせた

写真。

「サーカスはリヤカーに乗って」と銘打つ全国行脚。ワンボックスカーにリヤカーや

## 尾・木・足 反原発から公害原点

サーカスの道具を積んで、反原発を訴えながら巡る。「日本の公害の原点」とされる足尾鉾毒事件の発端の地を出発地を選んだ。

公演したのは二十代後半の卒業生三人を含む五人。地元の小中学生らを前に、風船を使ったマジックや、不安定な板に乗りながらの倒立などを披露。盛んな拍手を受けていた。

関東から順次南下し、米軍機の離着陸帯建設計画で揺れる沖縄県東村を指す。西田敬一代表(モ)は「原発事故は地球規模の公害なので、足尾を起点とした。一年以上かかると思うが、ゴールまで頑張りたい」と笑顔を見せた。

(石川徹也)

東京新聞 2014.3.12 (K)

# 反原発 リヤカーからゆるく訴え

## サーカス 沖縄への旅

### みどりの「学校」OBら、出発

東京電力福島第一原発の事故の影響で敷地内の放射線量が基準値を超え、一時休校を余儀なくされたみどりの市の「沢入国際サーカス学校」(西田敬一校長)の

OBらが11日、反原発を訴えながら栃木県の足尾から沖縄をめざす旅「サーカスリヤカーに乗って」をスタートさせた。  
東日本大震災から丸3年

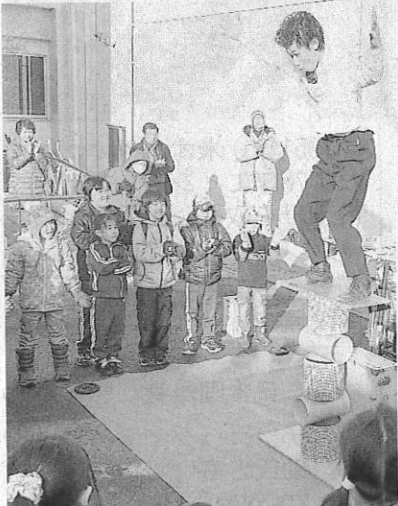
の11日、公害の原点と言われる足尾銅山跡(栃木県日光市足尾町)近くから出発した。ゴールは基地問題が続く沖縄と定めている。西田校長は「原発事故は最悪の大公害。被害者でもある私たちの声を届けた」と力を込める一方、「でも肩に力を入れないで、ゆるくいきたいね。大

道芸と一緒にならでできるはずだよ」。

リヤカーは小道具入れにも、楽屋にも、舞台にもなる。この日は同校OBの田中健太さん(28)、末広祥久さん(28)、クラウンのナナさんがジャグリングやローラーバランス、バルーンアートなどを披露。津波をテーマにした紙芝居も上演し、日光市立足尾小学校の児童らを魅了した。

今後は本拠地と行き来しながら、県内や横浜、千葉を回り、4月11日には経済産業省前のテント広場で公演予定。その後は静岡、長野、岐阜、京都と西に向かつて旅を続ける。観覧料はとらないが、「カンパ」を呼びかけていく。「行く先々で地元のパフォーマーと共演したい」と西田校長。問い合わせは同校(027-70・5010)へ。  
(馬場由美子)

リヤカーを舞台にアクロバットを披露した=11日、栃木県日光市足尾町赤沢



②田中健太さんの見事なバランス芸に「すごい!」①リヤカーにサーカス学校メンバーの思いを掲げている=いずれも11日、栃木県日光市足尾町赤沢

